見えない子供たちの現実
家庭教師の目
⑥最終回

夏休みにご用心

いよいよ夏本番を迎えますね。子供たちが夏休みに入るこの時期、高校一年のお子さんをお持ちの読者の方はご用心下さい。というのは、学校を辞めたり、不登校に陥ったりする子が多い時期だからです。

なぜ高一の子かというと、受験を塾通いでクリアした子の場合、勉強に付いていけなくなることがあるからです。ただ塾のマニュアルに頼って勉強してきた子は、概して自分で考える力を養っていません。ところが高校では、思考力が求められます。そのため、一度つまずくと、取り返すのが容易ではない。その中で取り残された子が自信を失い、落ちこぼれてしまうわけです。

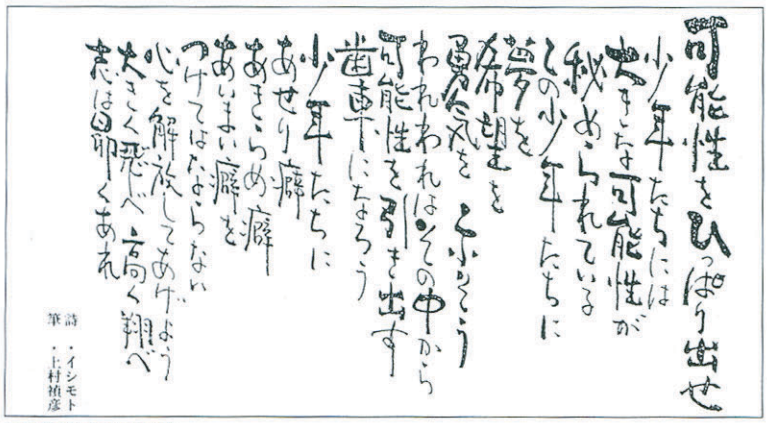
手前味噌ですが、家庭教師で学んだ子なら、一対一で分からないところをきちんと学ばせますから、そういったことはありません。しかし塾の場合、仮に少人数制でも、一対一で教えるわけではありませんから、どうしても受験のテクニックだけ学ぶ子が出てしまうのです。

それでも、あきらめることはありません。夏休みは逆に、学習の遅れを取り戻す好機でもあります。一学期の学習内容を復習しながら、家で勉強するリズムを掴ませてあげて下さい。塾へやっているから安心ではないんです。家で勉強できない子は、いくら塾でやり方を学んでも、実のところ八割が暗記の受験に勝つことは出来ないのですから。

それから、中学二年のお子さんをお持ちの親御さんもご注意を。この時期、非行に走る子が多いのです。年齢的に母親の手に負えなくなってきていますから、特に父親が気を配るべきです。ポイントは、許容範囲を広げ過ぎないこと。午後七時だった門限が、八時、九時と遅くなり、気が付くと十時を回っても平気で遊び回る子になってしまっていた—なんてことがないよう、おかしいなと思ったら、本気で叱って要所を締めて下さい。

以前、私のところで面倒を見た子など、勉強部屋にテレビを持ち込んでゲームばかりしていました。親が部屋からテレビを持ち出そうとしたら、猛烈に抵抗する。かなり困っておられましたので、この時は私が乗り込んでテレビを奪還したのですが、子供というのはこういうものです。悪いことをすぐに常態化させてしまいます。親が「まぁ、いいか」は禁物と心得るくらいが丁度いいでしょう。

さて、早いものでこのコラムも今回で最終回。これまで家庭教師の立場から、〝親と子〟あるいは〝親子と学校〟の関わりに欠けているもの、危惧される事柄を思い切って書かせてもらいました。読者の皆さんに、わが子の教育に関心を寄せる機会にしてもらえたなら、幸いです。いずれまた、誌面にてお会いしましょう。



日本学術講師会提供

文・中村信二

1963年福岡県生まれ。家庭教師派遣で福岡老舗の株式会社日本学術講師会、高校入試問題集のベストセラー「虎の巻」出版の株式会社ガクジュツの代表取締役社長。福岡青年会議所で教育問題調査会副委員長や社会参画推進委員会委員長などを歴任する傍ら、TV、ラジオにも出演。現在、貧しい子供たちのための「無料塾」開設を構想している。家庭教師の問い合わせはフリーダイヤル0120-41-7337へ